

令和3年3月11日（木）

令和2年度 第7学年 立志式 挨拶



多久市立東原席舎中央校  
校長 下村昌弘

江戸時代末期の儒学者である佐藤一斎は『言志録』の中で、「志」について次のように記しています。

「志を立て、これを求めれば、たとえ薪を運び、水を運んでも、そこに『道』はあって、真理を自得することはできるものだ。まして、書物を読み、物事の道理を窮めようと専心するからには、目的を達せないはずはない。しかし、志が立っていなければ、一日中本を読んでいても、それは無駄ごとにすぎない。学問をして聖者になろうとするには、志を立てるより大切なことはない」

ここには「志」のもつ意味が端的に語られています。

「志」がなければどんな恵まれた環境であろうと何事もなしえず、逆に「志」があればどんな局面におかれても人は成長できるのです。

皆さん一人一人には優れた才能があります。

5年、6年、7年という義務教育学校中学年の3年間を今こそしっかりと振り返り、その仕上げとして、今日は自分の言葉で自分の「志」を語ってほしいと思います。そしてそのことが、とりもなおさず、これから迎える8年生、9年生という高学年を生き抜く時の一本の棒、「信念」として自分を導いてくれるはずです。

さて、皆さんは、今日、どんな志を言葉にするのでしょうか。

「言霊（言葉には霊的な力が宿る）」という言葉もあるとおり、言葉にすることは、その言葉の実現へ私たちがいざなってくれます。仲間の思いを温かく受け止めるとともに、自らも未来の方向にしっかりと顔を向け、今日を新たなスタートとして一歩を踏み出してください。

Where there is a will, there is a way. 意志あるところに道は拓ける。

人生をやり直すことは出来ませんが、人生を新しく始めることはいつからでもできます。「始めよう」と決意したときが始め時です。

加えて言うと、今日の「志」が、折に触れ、修正され、変更され、アップデートされていっても構わないのです。いやむしろ、そうすることが人として当然のことかもしれませぬ。

いずれにせよ、7年生の皆さんの自立に向けた今日のこの一歩を心から喜び、応援したいと思います。7年生がんばれ。